法花寺町（ほっけじちょう）

江戸前期に分村・成立

江戸時代前期の慶安元（一六四八）年に当地は、当時の高殿村から分村して成立しています。

元禄年間（一六八八―一七〇三）に幕府が年貢徴収のため作った、全国土地台帳「元禄郷帳」に当地が「法華寺村」と見えます。現在の小字にも法花寺・上法花寺・中法花寺がありますので、法華寺・法花寺と呼ぶ寺のあったことが推測されるものの、資料が全く残っておらず判然としません。当時の「地方蔵方寺尾勤録」という古文書には、当村の年貢徴収率が五割九分五厘（五九・五％）だったという、いささか厳しい記録も残っています。

明治一五年ごろの戸数が一六戸で人口が八四人（町村誌集）。同一七年の主産物が米・麦・ぶどう・実綿など（農産物取調）で、やはりのどかな農村だったようです。明治二二年の町村制施行で鴨公村の大字になり、大正時代を経て昭和の時代を迎えます。昭和三一年の橿原市発足で現在の「法花寺町」が生まれました。

町の旧本村内に無住の法善寺が地域の住民に守られてあります。また町の北東部に昭和四五年、学校法人・奈良朝鮮学園の奈良朝鮮初中級学校が創設され、県内在住朝鮮人子弟・子女の「民族教育」が続いています。